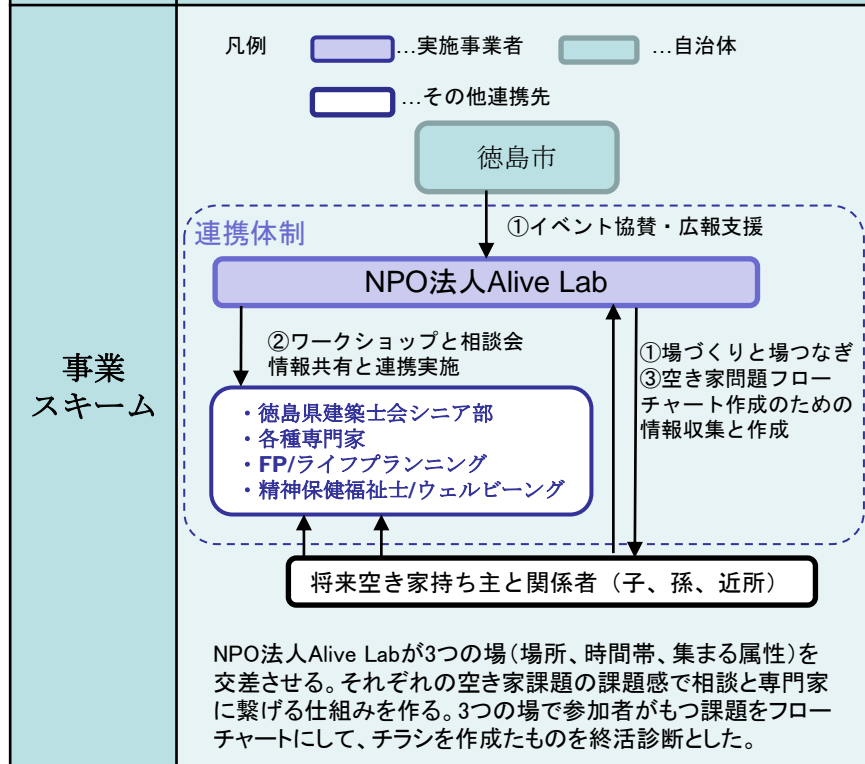


事業概要	高齢者が住むプレ空き家（＝将来空き家）を資産価値を保ったまま空き家にしたままの「住まいの終活」にかかる費用や心理的負担軽減など提案。連携は徳島県建築士会、各種専門家（FP/ライフプランニング、精神保健福祉士/ウェルビーイング）行政連携、コミュニティ形成、SNS発信広報支援としてチルドリン徳島。
-------------	---

事業者情報

団体名	NPO法人Alive Lab
所在地	徳島県徳島市北沖洲2丁目9-39
設立時期	平成20年
団体HP	https://ss-cocoro.net/

活動地域	徳島県徳島市
-------------	--------



取組内容及び成果

場づくりと場つなぎ

3つの場所（**まちの縁が輪、びっくり日曜日、アライブラボサロン**）

将来空き家問題をかかえる高齢者にはまだ自分事として捉えにくい。このギャップを埋めるため、高齢者が多く集まる日曜日のようなカジュアルな場での雑談を通じ、空き家問題に関する認識を高め、建築士会や各種専門家（ファイナンス、ウェルビーイング）のセミナー、アライブラボサロンでの具体的な相談会など、より専門的な知識を必要とする場で問題への理解を深め、解決策を探る機会を提供。



ワークショップと相談会

終活セミナー、ウェルビーイングセミナー、空き家セミナー、ファイナンシャルセミナー。それぞれのテーマでワークショップの開催と相談会

専門家が連携して支援を行う体制の構築にも寄与。空き家問題に気づき、相談できる窓口を設けることで、問題の早期発見と対処が可能になる。この活動で空き家問題解決のためのフローチャート作成する仮説検証のヒアリングと情報収集を行った。分析は専門家へ依頼し、フローチャートの根拠になった。

空き家問題のフローチャート（成果物）のための情報収集と作成

潜在的な問題にも気づき行動できるようにするため、多様なアプローチで情報収集とフローチャート作成に取り組んだ。専門家が連携して問題認識と解決策を探求。これらの活動から得られた知見を基に、空き家問題への気づきへの具体的な対応手順を示すフローチャートを作成、問題解決に向けた指針を提供。



場づくりと場つなぎ

3つの場所（まちの縁が輪、びっくり日曜市、アライブラボサロン）

空き家問題はすでに課題と捉えている人にとっては身近な課題だが、将来空き家（まだ住んでいる家）問題をかかえる高齢者にはまだ自分事として捉えにくい。このギャップを埋めるため、高齢者が多く集まる日曜市のようなカジュアルな場での雑談を通じ、空き家問題に関する認識を高め、建築士会や各種専門家（ファイナンス、ウェルビーイング）のセミナー、アライブラボサロンでの具体的な相談会など、より専門的な知識を必要とする場で問題への理解を深め、解決策を探る機会を提供。毎週日曜日7時半～10時まで全23回の開催。



早朝から10時ごろがピークになる日曜市。高齢者が多く集まる場所で雑談ができるようコーヒー屋さんの横に雑談スペースを構え、気軽に立ち寄れる場を作った。



同じ会場でイベントを行っていた中央署の方々とも意見交換。孤独死が増えていることやコミュニティの希薄で特殊詐欺など警察の方々とも問題の共有ができた



展示に工夫をして、遊山箱（ゆさんばこ）という伝統的なお弁当箱を飾った。高齢者が懐かしく感じて通りがかりの人からも声をかけられた。

ワークショップと相談会

第4回まちの縁が輪 くんだら塾 + 住まいの終活セミナー 開催の案内

日本建築士会連合会 前福祉まちづくり部会長

講師：中村正則

「高齢期に備えた住まいの改修・他」

高齢期の生活を多面的に捉えた
住まいの改修について
多くの人々に伝えていきます。
住民と取り組む地域防災についても
お話し出来ればと思います。
1952年生まれ、徳島市出身



定員 20名
参加費 無料

令和5年11月25日(土)午後2時～5時

第一部：ミニセミナー 午後2時～3時

第二部：意見交換会 午後3時～5時

<https://chouseisan.com/s/?h=d68190975e4e42e3947463c7909621ee>

↑お申込みはこちらから↑

開催場所

まちの縁が輪(旧森の元気)

徳島市幸町1丁目43番地

連絡先：090-1008-2607(佐藤)

主催者

NPO法人 アライブラボ

(公社)徳島県建築士会シニア部会

ひょうたん島まちなか再生機構



まちの縁が輪セミナー

(建築士と合同開催)

第一部：ミニセミナー

第二部：意見交換会

令和5年9月16日(土)

令和5年10月14日(土)

令和5年11月25日(土)

令和5年12月24日(土)

令和6年1月27日(土)

セミナーの目的：高齢者が直面する住宅問題への理解を深め、具体的な解決策の模索と世代間での住宅資源の有効活用を図ることを目的

セミナー詳細：

対象者：将来空き家を抱える可能性がある高齢者とその家族、バリアフリー設計などに関する相談を受ける建築士

セミナーテーマ：「住まいの終活」

徳島県建築士会シニア部会とアライブラボが提唱する「住まいの終活」をテーマに、高齢者の住宅に関する福祉の観点(バリアフリー、訪問介護受入れ可能な住環境など)を掘り下げた。住宅の世代間循環の促進を通じて、適切なメンテナンスとリフォームを促し、住宅価値の維持と空き家リスクの軽減を目指す。

- ・高齢者とその家族、さらには後継世代に向けた、住宅の持続可能な管理と終活に関する重要情報の提供
- ・空き家問題に対する社会的な関心の喚起と、関連する行政との連携強化
- ・「住まいの終活」による物理的および感情的な課題の統合的取り組みを通じた、新たな課題の発見と共感の促進

補足：全県下からシニア部会の建築士のみなさんが積極的に参加してくれた。中には地域の課題に寄り添う民生委員をしてくれる方もいて、実際の空き家の増加の課題について前向きな意見交換と気づきがあった。フローチャートの作成の参考になった。

ワークショップと相談会

第2回
令和5年
12/18(月) 10:00~11:30

場所 | ふれあい健康館
(徳島市沖浜東2丁目16)

今、家族に話しておきたい
3つのこと

～終活にまつわる家族のどのコミュニケーション～



講師 和賀 未青(わがみお)

精神保健福祉士、ソーシャルワーカー、精神科医療機関で24年勤務。
終活のシーンでの家族や当事者のケアを提案。

第3回
令和6年
1/20(土) 10:00~11:00

場所 | 四国大学プラザ第1セミナー室
(徳島市寺島本町西2丁目35-8)

お金と家族と健康を守る
未来に備える「自己防衛」



講師 加渡 いづみ(かどいづみ)

四国大学短期学部ビジネス・コミュニケーション学科教授
CFPファイナンシャルプランナー

参加無料
お申込み
受付中



専門家セミナー

精神保健福祉士 和賀未青さん

令和5年10月16日(月) 10時~11時(ケアマネ、高齢者の家族向け)
令和5年12月18日(月) 10時~11時半(高齢者当事者向け)

加渡いづみ先生

四国大学短期学部ビジネスコミュニケーション学科教授

CFPファイナンシャルプランナー

令和6年1月20日(土) 10時~11時

セミナー詳細報告

対象者：将来空き家を抱える可能性がある高齢者とその家族、ケアマネージャーなどの専門家

セミナーテーマ

精神保健福祉士/ウェルビーイング：終活と家族間コミュニケーション

終活に対する誤解や拒否感を解消し、家族間での健全なコミュニケーションを促進することを目的としたセミナーです。多くの家庭で終活について話し合うことに抵抗があることを理解し、その背景にある感情や誤解を明らかにします。家族間で異なる価値観を持つことの認識と、その中での建設的な対話の重要性を探ります。このセッションでは、家族の中で生じがちなコミュニケーションの問題を解決するための実践的なアプローチを提供します。

FP/ファイナンス：2025年問題と空き家対策

2025年に団塊の世代が後期高齢者となり、少子高齢化が進む中、空き家や空き店舗の増加が予想されます。このセミナーでは、不動産を含めた家族資産の管理と健康、そして将来の生活設計について考えることを目的としています。家を継ぐ人が減少する中で、家具の処分や家の維持に関する課題にどのように対処すればよいか、具体的な解決策と計画を提案します。参加者は、将来にわたって安心して暮らすための戦略を学び、家族と共に健康で充実した生活を送るための準備を始めることができます。

問題のフローチャート（成果物）のための情報収集と作成

A：持ち家でない人へ。家は片付いてますか？

相続人が部屋に残った残置物の撤去・処分も義務付けられている。
小さく始めるコツ。

B-1：一緒に暮らす家族構成にあったリフォーム

＝住宅改修の助成制度。

B-2：大がかりなリフォームはしなくてもちょっとした不便を解消すること

で生活の質を上げる。こまめなメンテナンスで住まいの価値を保つ。

＝建築士の話聞いてみよう

C：まずはちょっと話してみませんか？

何から始めたらいいかわからない、考えると憂鬱。コーヒーを飲みながら耳を傾けているだけでOK。

違うコミュニティに参加して新しい情報をキャッチ。

専門家からのアドバイス：大事なのは空き家にしないこと！

- ・40代、50代の現役世代も住まいについて考えておく必要がある。
- ・高齢者は自分の体力や健康状態を過信せず、住環境を整えることが大事。
- ・問題をひとりで抱え込まず、誰かに話し、助けを求めることも大切。

